

まちづくりの 基本姿勢

2ページに掲げる市のめざすべき都市像を実現し、豊かに満ちた活力あるまちづくりを進めるための基礎となる考え方として、右の4つをまちづくりの基本姿勢とします。

- ① 特性を活かした一体感あるまちづくり**
5つの地域自治区のこれまでのまちづくりを継承しながら、それぞれの地域特性を活かし、市域の均衡ある発展をめざします。
- ② 市民一人ひとりが主役となるまちづくり**
市民と行政の協働によるまちづくり、地域の主体性・自主性がより発揮されるような活力のある地域コミュニティの確立に努めます。
- ③ 安全で安心して暮らせるまちづくり**
福祉の充実や環境への配慮などを重視し、安全で安心、豊かな市民生活の実現をめざします。
- ④ 心豊かで地域を支える人づくり**
未来を担う子どもたちをたくましく心豊かにはぐくむとともに、地域を愛し、支える人づくりを進めます。

① 子育て環境ナンバーワンプロジェクト

新しい地域づくり・都市づくりをする上でも少子化対策は重要な課題です。市、は合併前の各市町村がそれぞれ策定していた「次世代育成支援行動計画」を基本としながらも、さらに一歩踏み込み「子育てするなら奥州市で」をスローガンに、「未来に輝く奥州っ子を地域全体ではぐくむまち」を基本理念として総合的な対策を実施していきます。

② 知識集積型都市・高度教育都市構築プロジェクト

企業では、常に変化を続ける社会情勢や多様化するニーズに即した戦略的な経営が求められており、中でも「ひと、ものづくり技術、知識や情報」など人的資源への期待が高まっています。

このような多様化する社会環境に対応するため、情報通信基盤整備はもとより、市民や地域、企業、教育機関などが連携したひとづくりが必要となっています。市は多様な個性や能力を存分に伸ばし、職業観・勤労観をはぐくみ、情報化、国際化に対応できる教育や環境づくりを促進し、人材の育成を図ります。

③ 世界文化遺産を核とした文化交流・観光プロジェクト

「白鳥館遺跡」「長者ヶ原廃寺跡」は、『平泉—浄土思想を基調とする文化的景観』の構成資産として、平成20年の世界文化遺産登録をめざしています。

このため、遺跡とその周辺地域を適正に保全、管理していくほか、多数の観光客など来訪者を受け入れる環境の整備を進め、世界遺産を核とした観光の振興を図ります。

また、市民との協働により世界文化遺産を活用した地域づくり、さまざまな文化交流などを推進しながら、世界遺産に対する市民の関心がさらに高まるよう努めます。

副県都をめざす 戦略プロジェクト

めざすべき都市像の実現に向け、市の組織を挙げて取り組む戦略プロジェクトです。

実施に当たっては、行政、市民、企業など多様な主体が連携し合い、目標の実現に向け、取り組んでいくものです。今回の総合計画では、左の3つのプロジェクトを設定します。



今後10年間の市の基本方針がまとまりました

奥州市総合計画

奥州市として初めて策定する総合計画は、合併協議により策定された新市建設計画を尊重しながら、合併後の新しい発想を加え、今後10年間の新たな市政運営の基本方針を示すものです。総合計画の策定に当たっては、市民3千人を対象としたアンケート、市政懇談会やパブリックコメントなどを実施して市民ニーズの把握に努めてきました。ことし2月には市議会で審議され、正式に決定しました。本年度からスタートする総合計画のあらましをお知らせします。

めざすべき都市像

歴史息づく健康文化都市 産業の力みなぎる副県都

この地には、先人たちが築いてきた豊かで誇り高い歴史があり、それらは市民生活の礎となり綿々と息づいています。このような歴史を背景に、市民の誰もが健康で生きがいを持って生活できるよう充実した教育と文化水準の向上を図り、健康で文化的なまちづくりをめざします。

さらに、本市は、市町村合併により人口や産業力においても県内有数の規模を有する県下第2の都市となったことから、活力あふれる副県都の創造をめざします。